

平成 29 年 11 月 14 日

「医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟」 決議文

会長 河村 建夫

医療は、国民生活の福祉の向上と幸福に貢献し、地域住民の安心と安全を支える公共的な存在である。我々は、本年春より「医師偏在是正に関する研究会」（呼びかけ人代表河村建夫）と、若手議員とを中心とした「医師偏在と良質な地域医療を考える勉強会」（呼びかけ人代表三ツ林裕己）とで、それぞれ現在の医師養成の課程と、地域医療の逼迫している実情とに対して、議論を積み重ね、この度、両勉強会が合流し、本議員連盟の設立となった。

医師養成に関しては、一般診療能力を備えた医師を養成するという目的で平成 16 年臨床研修制度が導入され、その後も医学部教育の現場では、OSCE（客観的臨床能力試験）方式など、臨床実習の到達度の評価に重きが置かれて来た歓迎すべき動きもある。このような中で、さらに、本年 2 月には、厚生労働・文部科学合同委員会により、卒前の臨床実習及び卒後の臨床研修について、整合的に 9 つの目標が設定されることとなりその連携は徐々に進んでは来ている。

一方、医師の需給に関しては、政府は、昭和 48 年の無医大県解消構想（一県一医大構想）の閣議決定、昭和 57 年の医学部定員抑制の閣議決定、平成 18 年～20 年の地域枠設定等の四大臣合意や閣議決定を行ってきた。一方、医師の偏在に関しては、立法措置としては、平成 18 年の第五次医療法改正による都道府県医療対策協議会や平成 26 年の第六次医療法改正による都道府県地域医療支援センターの法定化を行い、さらに昭和 60 年の第一次医療法改正による病床規制で、都市部への集中を回避する制度化などを図ってきた。

これら、医師養成の過程と、医師偏在や需給の課題は、それぞれに議論されて来たが、両者が連携して議論される機会が少なかった。このため、今なお、医師偏在に加えて、診療科偏在は、地域医療を支える上で喫緊の政治課題となっている。特に産婦人科・小児科・外科等の偏在は地域医療にとり深刻な課題である。

また、当初の臨床研修制度では、総合的な医師養成を目指すという目的のもとで、上記科目は必修としてカリキュラムが組まれていたが、現在は、一部の診療科のみを長期間経験するなど、その目的とは合致していない現状もある。

議論の過程で、長年の医師養成課程において教育機能、派遣機能、研究機能を担ってきた医局に関しては、医師偏在の問題のみならず、次世代の医学の進歩と国民医療の発展のために更なる役割が期待されるが、臨床研修制度導入以降、その役割が再検証される機会が極めて乏しかった。

加えて、女性医師が近年医師になる構成員の3割を超えたことで、キャリアデザインにおいて妊娠や出産等のライフイベントに対する、より一層の配慮も求められるようになった。

本議員連盟では、このような視点に立ち、良質な地域医療の確保と医師偏在解消にあたっては、医師のキャリアデザインに一貫性を持たせた上で、根本から医師養成課程をシームレスに検証することとする。現在行われている働き方改革の議論や来年度からスタートする専門医制度なども踏まえた将来的な医師養成過程全体についての改革を行う必要があると考える。これら全体を俯瞰した上で、人口減少が急速に進む地域に対して、早急な実効性のある議論と対策を進めるべく、「医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟」は入会議員の総意を以って、以下、決議する。

記

- 一、医学部教育、臨床研修制度、専門医の仕組みをシームレスに結んだ実質的な医師養成となるよう、臨床研修制度の存続の是非を含めて根本的に検証し、関係省庁・機関の連携のもと、医師養成の充実を徹底してはかること。
- 一、卒前の臨床実習において、医学生が行うべき臨床上的手技の範囲について長年見直しがされていないことから、速やかに再検討を行い、診療参加型実習を強化すること
- 一、平成16年度の臨床研修制度開始後に導入された医学部の共用試験（CBT等）に関して、公的な枠組みのないことから、その位置づけを見直すと共に、その試験内容と連動して、手技・技能の向上の確認も含めた、国家試験の抜本的な見直しを行うこと
- 一、卒後の臨床研修において、外科、小児科、産婦人科、精神科の必修化を行うこと
- 一、地域医療に実践的に貢献できるよう外来での臨床技術や医師としての確かな倫理を基本とした心得の習得も同時に磨き、医師として一般診療能力を有することについて、国民に分かりやすく伝わる標記の検討を行うこと
- 一、女性医師の妊娠や出産等や男性医師でも育児や介護など、様々なライフイベントやライフステージにあった医師のキャリアデザインに対して、制度として配慮すること

上記を踏まえた上で、地域医療における医師確保については、医師養成課程において、医師のキャリアデザインを一貫して考え、大学の医局の教育機能、派遣機能、研究機能の要素を十分に再検証し、現実的で実効性のある仕組みが構築されるよう、必要な法制上の整理も含めて早急に検討・措置すること

以上

「医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟」

会長 河村 建夫